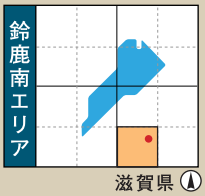
天然記念物

国指定

鎌掛の屏風岩

蒲生郡日野町鎌掛　昭和18年8月24日指定



日野町は、中世から近世にかけて活躍した蒲生氏の本拠地で、鎌掛には中世の蒲生氏が構えた鎌掛城とこれに伴う山屋敷と呼ばれる居館群が残ります。屏風岩は山屋敷の背面を流れる滝谷川の右岸にあり、屏風を倒したような形に見えることから、この名が付けられました。



屏風岩

鎌掛の屏風岩

滝谷川の右岸、城山の南西斜面に露出する平板状の珪岩で、大小2枚が残ります。節理面と、これに直行する節理面が交互に現れるため、ちょうど屏風を山腹に立てかけたように見えます。大屏風岩は、長さ約40m、最大幅約8mで、小屏風岩は大屏風岩の半分程度の規模です。大屏風岩の面は平滑で、掻痕が無数に残ります。これは、もともと大屏風岩の上に乗っていた小屏風岩が現在の位置にずり落ちたときに付いた傷と考えられます。

周辺の地質状況から屏風岩は、古生代の岩石と考えられますが、鈴鹿山地の造山運動により周辺の岩石が著しい褶曲（しゅうきょく：地殻に働く力により地層が波状に押し曲げられること）を受けているにもかかわらず、ほとんど褶曲を受けていない珍しい堆積岩です。



屏風岩と鎌掛石



屏風岩



鎌掛石の縞模様

鎌掛石（かいかけいし）

屏風岩の周辺の岩石は、淡青黒色と灰白色の岩石が2～3cmの互層を成し緻密で美しく、かつ、節理に沿って割りやすかったことから、江戸時代には「鎌掛石」と称して、盛んに切り出され、周辺の石垣などに用いられました。ただ、当時から村外への持ち出しが禁止されており、鎌掛の集落のみに、独特の白っぽい色の石垣を見ることができます。屏風岩も採掘の対象となり、下流側の屏風岩から切り出され、現在残っているのは、往時の三分の一にしか過ぎないということです。とすれば、江戸時代には6曲の屏風岩が山肌を飾っていたことになります。

昭和18年の指定調書には「俗に鎌掛石と称し、此の場所を石切場と称する程なり、故に、此の儘放置するときは全部割取らるる懼れあり」と記されています。

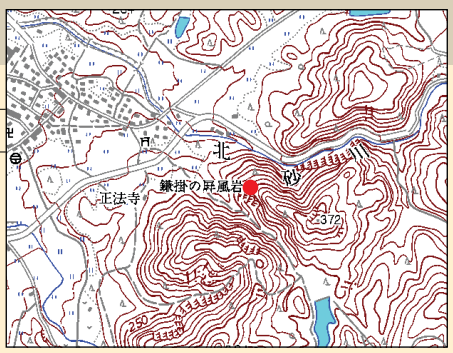
関連する文化財

砦崎ノ屏風岩（兵庫県新宮町・竜野市）	石英安山岩の岩脈が、凝灰質石英粗面岩を貫いて露出した地質で、屏風状の岩脈が絶壁をなす
御岳の鏡岩（埼玉県神川村）	断層面ができるときに、強い摩擦力により磨かれ、平らな面となったもの。周囲の杉木立がかすかに映るほどである
綿向山麓の接触変質地帯（日野町）	学習シートNo.116
別所高師小僧（日野町）	学習シートNo.118

もっと深く知りたい

日野町教育委員会　☎0748-52-6566　蒲生郡日野町河原470

琵琶湖博物館　☎077-568-4811　草津市下物町1091



鎌掛の屏風岩へのアクセス　近江鉄道　日野駅下車
名神高速道路　竜王インター

【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月